

めあてカード・評価カードを活用して承認・賞賛の機会をふやす

目的

本校は、児童数14名の極小規模校である。幼いころから限られた集団の中で生活しているため、特に多くの言葉を使わなくてもお互いの気持ちが通じ合い仲がよい。また、交通量が極めて少ない等の安全な環境の中で、異学年による外遊びも日常的によくできている。

しかし、児童が将来社会参加していくうえで、自分の思いや考えを適切な言葉を選んで表現する力（表現力・コミュニケーション能力）や、集団生活におけるルールを守る態度には課題がある。

そこで、月目標を設定し、生活カードの活用と自己評価・相互評価により課題の改善を図るとともに、承認・賞賛の機会を増やすことで自尊感情を育てていきたいと考え、本活動に取り組むこととした。

内容

● カードの作成

本校の教育方針を基に、生徒指導の4本柱を設け、それを4か月サイクルの生活重点目標とし、それらを受けて、自分のがんばるめあてを決めて取り組んでいる。

（あ：あいさつ・そ：そうじ・ぶ：ブレーキ・こ：ことばづかい）

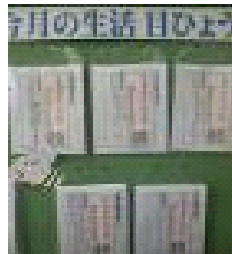
- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 4月 気持ちのよいあいさつをしよう。 | 5月 だまって時間いっぱいそうじをしよう。 |
| 6月 ろうかやかいだんの右側を通ろう。 | 7月 ことばづかいをよくしよう。 |
| 9月 時間を守ってすみずみまでそうじをしよう。 | 10月 ろうかやかいだんを走らないようにしよう。 |
| 11月 友だちのよいところを見つけよう。 | 12月 寒さに負けず元気なあいさつをしよう。 |
| 1月 始まりの時刻を守ってそうじをしよう。 | 2月 ろうかを正しく歩こう。 |
| 3月 お世話になったものに感謝しよう。 | |

● 教育活動におけるカードの活用

毎日の朝の会で、自分の今月のめあてをみんなの前で発表し、意識付けを行う。そして、帰りの会で1日の反省を言い、みんなにがんばり度を認めてもらう。月末には、各自で自己評価することにした。



<児童用昇降口の掲示>



<学級での掲示>

● 児童の相互評価を加味した担任の評価と賞賛

月末の自己評価だけでなく、児童の相互評価と担任の評価を加味した学級全体評価を取り入れ、児童の励みとなるような賞賛の場を毎月設定した。（ご褒美シール・ご褒美メダルなど）



<いじめゼロ宣言>



<聞く立場で>

成果

こうした取り組みをすることで、家庭にがんばりを知らせる児童が増えたり、がんばりに対して家庭から連絡帳を通じて賞賛の言葉をもたらしたりする児童も出てきた。些細なことではあるが、学校と家庭とが連携して温かくその児童を見守り、表現力や社会的ルールを守ろうとする態度を育てていく取り組みの一つとなっている。